

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 もみじ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (平成30年12月10日), 評価結果市町村受理日 (平成31年2月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0171300072-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年1月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念をベースに日々のケアに当たっている。その実現に向けて日々努力をしている。地域に根ざすため、また地域の一員としての自覚を持ちそのための市民活動にも参加している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町内会に属している。ホームの行事や里の家まつり、運営推進会議にも参加していただいている。ホーム内での事故報告や行事報告、また避難訓練にも参加協力していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会にはホームは認知されている。日頃、町内会の行事(焼肉パーティー)や地元の小学生との交流会にも参加しており、利用者と直接触れ合う機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームで起きた事故やヒヤリハットを提示し、原因になったこと、改善策で話し合った結論などを報告している。また個別少数行事(ランチや買物)を行なっていることも報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは密に連絡をとっている。運営推進会議にも参加していただき事業所の取り組みは報告している。入居手続きの行き違いで市町村同士で問題が発生したこともあったが連携を取り合ったことでスムーズに解決した。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、交通量の多い立地条件でもあり、万が一の事を考慮し利用者の身の安全を図る上でやむをえないことは理解している。利用者の希望があればすぐに外に出られる体制はとっている。今年度身体拘束廃止適正化委員会の立ち上げを行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるかを学ぶ機会は外部研修や内部研修ともにある。職員はこのテーマの講習を必ず受講している。そこで学んだことを他スタッフに伝えることで情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者や自立支援医療を活用している利用者もいるため制度があることは周知している。またこの制度を理解するための研修会にも参加している。後見人と関係性も良く、学べる環境でもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明を行なっている。ご本人様とご家族様が納得されるまで説明を行なっている。契約後も不安や疑問があれば職員で聞き取りし納得いくよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見箱を設置している。意見や要望は速やかに運営に反映されている。また運営推進会議上でアンケートをとり意見や希望を伝えやすくする取り組みも行なっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議やまた月1回本社で行なわれる合同会議上で職員の意見を述べる機会がある。また日常的に意見や要望は率直に言える環境にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの生活上での制約や諸事情を把握している。またそれにそった勤務時間の割り当てがされている。個人面談で管理者やリーダーと直接話し合う機会が定期的にあい意見聞き取る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は学ぶ機会を持っている。外部、内部の研修に行く機会がある。研修で得た情報を他職員と共有し実践している。例として感染予防や災害対策など、時期に見合った研修には常参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業種の事業所の見学や説明を聞く場が設けられている。他の施設を見学することで、自分の施設の良いところが発見できたとの声もある。例として当ホームは古いがホーム内の設備は綺麗に使っている等の意見。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される時にはご本人様と面談を行ない、ホームで生活するにあたって不安や疑問に思う事をお聞きしながら、安心して生活していただけるよう説明を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに入居される前のご本人様の暮らしぶりを丁寧にお聞きしている。またご家族様の抱えていた苦勞を共有し、ホームで生活する上での不安と要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム入居時にご本人様にとって必要な支援が何であるかを見極め、ご本人様とご家族様と協議しながらサービスの内容を決めている。ご家族様との信頼関係の構築を最優先に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を見極め、出来ることへは参加していただいている。調理補助や洗濯物たたみなど家事を通じてやりがいを持っていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の暮らしぶりや生活面での変化は都度ご家族様へお伝えしている。また面会の少ないご家族様へは電話、メール、FAXなどを利用して関係性が希薄にならないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の知人や友人、近所に在住の方も実際おり、いつでも面会にきていただけるよう配慮している。他にご本人様が住んでいた場所や勤務先付近などをドライブ先に選ぶ支援も行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を重要視してテーブル席を決めている。車椅子の方が多いため、席の配置には苦勞があるが、皆が穏やかに過ごしていただけるよう、トラブルになる前に席替えを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても電話やメールで連絡がくるなど関係性が続いている方も多い。ご家族様も行事にボランティアとして参加していただいている。入院されている方へは折をみて見舞いにも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の暮らしぶりはフェイスシートで確認またご家族様へもお聞きしている。ご本人様の希望の聞き取りが困難な場合は、スタッフ間で協議して最適な支援を模索している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から情報収集を行なっている。パークゴルフが趣味だった方へは、その提供をケアプランに反映してその履行に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや会話でその日の状態を把握している。体調が悪い日や寝不足の日は静養を提供したり、状態に応じた支援を行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時はご本人様の希望とご家族様の要望をお聞きしてプランに反映させている。他にも電話やメール・FAX等も活用し、ご本人様の現状を認識していただけるよう連絡をとりあっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や特変事項は経過記録と業務日誌に記録している。また新たな気づきでプランの立案や見直しが生じることもあり、職員間で情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズを日々の生活で把握して行事として立案している。好評を得たものは提供をプラン化している。(釣り、日帰り温泉、ボーリング等)。個別行事の実現には力をおいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや小学生との交流、町内会行事への参加、認知症カフェ、訪問美容室の利用で地域の方々の理解を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関の往診を受けている。入居前より利用されている医療機関がある方は、引き続き継続利用している。訪問看護も利用しており、日々の体調の変化を報告して適切な指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子を観察し、いつもと違う様子があった時は訪問看護時や電話でも都度報告と相談を行なっている。関係が密にとれることで、往診時に担当Drにも症状の変化を詳細に伝えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携しているかかりつけ医療機関との情報共有し、現在や今後等の相談を行なっている。ご本人様の状態を見極め、緊急搬送先の病院から関係医療機関への転院フォローを適切に行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に管理者がご本人様やご家族様の希望をお聞きしている。ホームとしてできること、できないことの説明を行ない理解を得ている。現在ははないが今後必要な時はいつでも対応することを職員の中で常に考え学ぶ姿勢を持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予測される利用者の状況を把握している。急変時の対応等の訓練を定期的に行ない実践に備えている。また緊急ファイルを作っており緊急時は持ち出している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災などを想定した訓練を定期的に行なっている。全ての職員が適切に避難できる方法を身につけるため、訓練に片寄りがでないよう配慮している。地域住民の方にも協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗を苦にさせない様に「大丈夫、きれいにしましょう」等の声かけを行なっている。特に排泄時や入浴時はプライバシーに注意して支援をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出できる方へはお聞きして行事として立案している。表出できない方へは、職員の判断で行なうこともあり、またご家族様の希望をお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活ペースを大切にしている。起床が遅く朝食が遅食になる事が多い方へも離床をせかすのではなく、その方に合わせ起きた時に朝食をお出ししている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する時は、身だしなみに留意している。衣服を変え、整えることで良い意味での緊張感が生まれ、生活のリズムに変化がつく支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ラーメンや寿司など食べたい物をお聞きしている。準備を共に行なえる利用者へは調理や盛り付けなど一緒に行なっている。食後も後片付けを共に行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に留意しご本人様の状態を見ながら介助を行なっている。嚥下状態が不良の方へは刻みを行ったり、トロミを付けて提供し栄養と水分量の確保を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前の義歯の洗浄に拒否が強い利用者いる。口腔内の清潔を保持するため歯科のDrや管理者の協力を得ながら、歯磨きの重要性の説明を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排尿と排便の把握を行なっている。排泄の訴えがない利用者でも身体を前に倒し立ち上がろうとするような表情の変化や動作を観察し失禁前にトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防の食材を提供したり水分を多く摂っていただくなどの支援をしている。手摺り使用での運動も適時支援している。状況に応じてかかりつけ医療機関に相談してより自然な排泄になるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好まれない方へは、無理強いはせず、ご本人様の希望を優先している。足浴や清拭などでご本人様が気持ちが良いと思っただけの時間帯やタイミングに支援を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年の生活習慣を鑑みて日中であっても寝たい時は静養を促し、お部屋で食事を摂りたい方へはお部屋食を提供し、よりご本人様のペースで生活していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の種類や効能などを理解している。また下剤の量や排便の有無、排便の形態や下剤服用後の腹痛の有無などを観察して職員間で情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加を好まれる方、パズルまたはカラオケをしたい方など楽しみは個々に違うが、参加することで張り合いを感じ気分転換に繋げるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は可能な限り希望をお聞きして支援を行なっている。外食行事や買い物行事には家族様も同伴していただけるかを声かけしている。ランチや買い物など個別行事には力を入れており、またボランティアの方にも積極的に参加していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身で管理している方は少ないが、使わずとも持っていることでの安心感は重要と考えている。買い物ではご自身のお金をご自身で支払っていただけるよう手渡しする支援を行なうこともしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	来設が少なく寂しさから家族へ電話をかけたいとの希望がある時は速やかにご家族などの協力を得て対応している。必要に応じて公衆電話の利用もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度などは最適になるよう支援している。トイレや浴室などはそれと分かるよう表示している。また居室には表札があり誰の部屋であるかを理解できるように支援している。また季節が分かるよう掲示物や展示物で示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい方はそれができる非常口付近の空間があり、外の道行く人や車を眺めたりしている。また気の合った利用者同士が共に過ごせるようテーブル席の配置にも留意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の調度品はご自宅より馴染みの物を持ってきていただいている。仏壇を持って来られる方もいる。また家具の配置もご本人様が使いやすいようご家族様と相談しながら設置場所を決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、階段には手摺りが取り付けられており安全面に配慮している。また居室には表札をトイレや浴室の場所が分かるよう張り紙をしている。		